

ムーミン谷の地図から読み取るムーミン谷の地形 ほっしー

地形学の講義を受けている時、ムーミンでは地域のことにに関する描写が含まれているとの話を聞き興味を持った。そのため、『たのしいムーミン一家』に載せられている巻頭口絵や本文中の記載を基に、自然環境の特徴と地図の特徴に関して考察してみる。

『たのしいムーミン一家』の巻頭口絵にはムーミン谷の地図がある。この地図は、斜め上から見た鳥観図でムーミン谷周辺の地形・生物・構造物が記された主題図でもある。方角は一般的な地図と同じで上が北、下が南、右が東、左が西である。道はムーミンやしきから見て北東にあるおきびし山への道と、北北西の帆前船がおいてある砂浜への道がある。

また、徒歩や船を使用するムーミン達の生活圏の地図なため、そこまで広域の地図ではない。今回は、建物の大きさや動物の大きさが正確ではない気がするため縮尺は気にしないことにする。ムーミンやしきは冬になると「一つの大きな雪だるまみたいなもの」(ヤンソン、p11) になるため、季節は冬でないことも分かる。

この地図の地形について見てみると、谷地形の川の両側に雪の積もる高くて急な山がある。この山は頂上が尖っていることから、氷河地形の一つであるホーンだと考える。帽子が山頂にある山の中腹の雲は形から見て積雲である。小倉によると、積雲は高度が 0.6km から 6km またはそれ以上で発生する雲である。そのため、山は標高 600m 以上だと推測できる。

帽子が山頂に載っている山も見ると山の中腹で川ができており、大きな谷川と合流する手前で二つに分かれている。これは中州という砂州の一種であり、地質調査総合センターによると砂礫の堆積のできる地形で砂礫の供給が減ることで中州に植物が生える。つまりこの川は元々砂礫が堆積しやすく緩やかで、堆積した場所の高さの上昇や水量等の変化で川が二つに分かれて残された砂州に植物が生えたと考えられる。例として、下の図の日本にある中州の写真を挙げる。

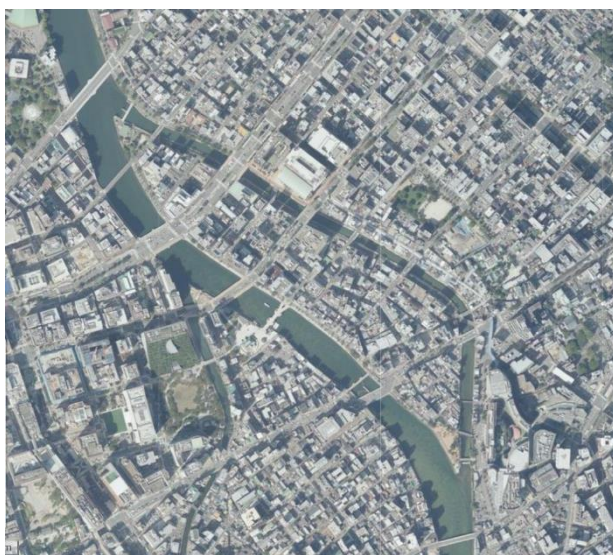


図 地理院地図 写真
福岡県福岡市中洲
(2020 年 10 月撮影版を
切り抜き)

加えて、帽子のある山は中腹で木が無くなり森林限界が分かる。森林限界は、嶋田ほかによると、亜高山帯の上限のことでこれより標高が高い場所は低温・強風・乾燥で森林ができない場所となる。他の植生は、おきびし山より奥が針葉樹林帯である。おきびし山の手前は、ヤシの木のような木や広葉樹林がある。つまりおきびし山の手前と奥では気象や地形の条件が変化する。

また、谷には大きな川が流れており、ムーミンやしきとおきびし山を繋ぐ橋のある場所から東側は蛇行していることから平坦になっていることが分かる。そして、その先には砂州がある。砂州ができるのは、砂礫に対する浸食・運搬作用より堆積作用が強い場所なため、傾斜が緩やかなことが分かる。

西には、潮の流れのある海があり、小さな砂浜は上記で述べた帆前船のある船着き場がある。海に面した場所はこの砂浜以外は海岸崖となっている。海食崖は「海岸線が浸食してきた崖」(p28、帝国書院)のことを指す。地図の北西の端にあるニョロニョロの島については、今回は触れないこととする。

また、西南西にあるほらあなも海に削られてできたものだと考えられる。『たのしいムーミン一家』の P72 と p73 にほらあなに関する記述があり、このほらあなには「砂」があることが分かる。砂が洞窟にあるということは、風か水によって運ばれて堆積したことになる。ほらあなは海の方に穴を開けているため、風ではなく海流によって砂が運ばれ、波による浸食作用でほらあな自体も削られていたと考えられる。

また、海食洞は波の影響を受ける場所で形成されるが、地図を見ると山の中腹にある。JAXA によると北欧では氷河時代に分厚い氷河に覆われていたがその後の氷河の後退で土地が隆起したという。そのため、この地域も隆起したことを示しているといえる。

以上のことより、ムーミン谷の地図からムーミン谷では氷河地形と海岸地形と河川の地形があり、変化に富んだ地域である。この地域の地形は、北欧で見られる地形と類似している。地図自体の特徴としては、物語を分かりやすくするための主題図であり斜めの角度から投射した地図で建造物は大きめに書いてあるといえる。

<参考文献>

- ・「北欧の衝突クレーター」地球が見える 2005 年、JAXA 第一宇宙技術部門
<https://www.eorc.jaxa.jp/earthview/2005/tp050315.html> (最終閲覧 2026 年 7 月 18 日)
- ・「沿岸の地形」学習資料「一家に一枚」身近な現象から知る地球 自然と生きる列島、防災科研 <https://www.bosai.go.jp/poster-earth/ocean/> (最終閲覧 2026 年 7 月 18 日)
- ・「中州」絵で見る地球科学、国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター
https://gbank.gsj.jp/geowords/picture/photo/fluvial_bar.html (最終閲覧 2026 年 7 月 18 日)
- ・「地理院地図 写真 2020 年 10 月撮影期間」国土地理院
<https://maps.gsi.go.jp/#15/33.593048/130.405998/&base=ort&ls=ort&disp=1&vs=c0g1j0>

[h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1&d=m&reliefdata=69C4G0000FFGA28G2B2BFFGA8CG5555FFGAF0G8080FFGB54GAAAAFFGBB8GD5D5FFGGFFFFFFF](https://www.moomin.co.jp/news/blogs/48146)（最終閲覧 2026 年 7 月 18 日）

・「ムーミン谷はどこにある？」ムーミン公式サイト

<https://www.moomin.co.jp/news/blogs/48146>（最終閲覧 2026 年 7 月 19 日）

※本レポートのムーミン谷の地理に関する記述は上記公式サイト of ムーミン谷の地図に掲載されている地図情報も『たのしいムーミン一家』の巻頭口絵と同様に参考している。

・『新詳地理資料 COMPLETE 2022』p28、p30、帝国書院、2022 年 2 月

・嶋田正和、坂井達雄、鈴木誠、園池公毅、成川礼、湯本尊和、板山裕、大野智久、岡本元達、久保田一暁、佐野寛子、中井一郎、中垣篤志、中村厚彦、中村哲也、鍋田修身、大森茂樹、田中秀二、中道貞子、早崎博之『生物基礎』p178、数研出版、令和 4 年 1 月

・ヤンソン、山室静訳『たのしいムーミン一家』巻頭口絵、p11、p72-73、講談社、1978 年 4 月

・小倉義光『一般気象学』第 2 版補訂版、p100、東京大学出版会、2016 年 3 月